

社会資本総合整備計画 防災・安全交付金

平成30年07月30日

計画の名称	14 米子駅周辺における安全・安心な歩行空間の創出（防災・安全）												
計画の期間	平成28年度～平成32年度（5年間）								重点配分対象の該当	○			
交付対象	米子市												
計画の目標	JR山陰本線で分断された米子駅周辺地区において、南北自由通路及び駅南広場を一体的に整備することにより、駅へのアクセス改善による利便性向上や、交通結節点としての機能強化を図り、併せて、高齢者や障がい者など歩行者に配慮したユニバーサルデザイン化（エレベーター、視覚障がい者誘導用ブロックなど）を行うことで、安全・安心な歩行空間の創出を図る。												
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）	3,894	A	3,894	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C / (A+B+C+D)	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値 平成28年	中間目標値	最終目標値 平成32年
1	1日あたりの駅利用者数を7,100人から7,900人に増加させる。 1日あたりの駅利用者数を計測する。（駅利用者数＝JR利用者＋自由通路を利用するがJRは利用しない者） 最終目標値7,900人 7,186人【（JR利用者見込数(H32):推計人口143,729人×5%）】＋719人【（自由通路を利用するがJRは利用しない者:7,186人×10%）】<5%:人口に対する駅利用者数の割合（H26実績値）、10%:JRは利用しないが自由通路のみを通過する者のJR利用者数に対する割合（自由通路を整備した他駅事例より推計）>	7100人	人	7900人
2	歩行者の駅南地区から米子駅までのアクセス時間を4分短縮させる。（現況では米子駅のアクセスは駅の北側からに限られているため、駅南地区の住民は大幅な迂回が必要となっている。ユニバーサルデザイン化された南北自由通路・駅南広場を利用することで、高齢者や障がい者など歩行者が安全に安心して駅を利用でき、アクセス時間も短縮される。） 歩行者の駅南地区から米子駅までのアクセス時間を算定する。 最終目標値4分短縮＝【（整備後のアクセス時間9分）－（整備前のアクセス時間13分）】	13分	分	9分

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-
・1日あたりの駅利用者数：現況値7,100人（H26年度実績値）・歩行者の駅南地区から米子駅までのアクセス時間：現況値13.0分（H27年度算定値）								

A 基幹事業

基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												H28	H29	H30	H31	H32			
一体的に実施することにより期待される効果																			
備考																			
道路事業	A01-001	街路	一般	米子市	直接	米子市	S街路	改築	米子駅南北自由通路(自由通路)	自由通路整備 L=0.1km	米子市						3,410	-	
	A01-002	街路	一般	米子市	直接	米子市	S街路	改築	米子駅目久美町線(駅南広場)	駅南広場整備 A=0.6ha	米子市						484	-	
												小計						3,894	
												合計						3,894	

交付金の執行状況

(単位：百万円)

	H28	H29			
配分額 (a)	82	80			
計画別流用増 減額 (b)	0	0			
交付額 (c=a+b)	82	80			
前年度からの繰越額 (d)	0	40			
支払済額 (e)	42	120			
翌年度繰越額 (f)	40	0			
うち未契約繰越額(g)	3	0			
不用額 (h = c+d-e-f)	0	0			
未契約繰越率+不用率 (i = (g+h)/(c+d))%	3.65	0			
未契約繰越率+不用率が10%を超えている場合その理由					

(参考図面)

計画の名称	14 米子駅周辺における安全・安心な歩行空間の創出 (防災・安全)	
計画の期間	平成28年度～平成32年度 (5年間)	交付対象 米子市



